令和２年度第２回香取市文化財講演会　　令和３年３月７日(日)

於　香取神宮神徳館

香取神宮の遷宮・神幸祭と八龍神

木村　修

＊【１】などの数字は史料の番号を示す

１　香取神宮の木造八龍神像８躰

像高…85cm～95cm

造像時期…２躰は江戸時代

６躰は戦国時代の可能性。江戸時代に補修した痕跡

（香取市文化財保護審議会委員　飯泉太子宗氏所見）

足裏に枘を切断した痕跡

２　香取神宮神幸祭と八龍神

権検非違使家本「神幸祭絵巻」…現存最古の神幸祭絵巻

[奥書の記載]建仁２年(1202)の帳を至徳３年(1386)に改め誌し、それも虫損したために永正13年(1516)に書写した

神事は永徳年間(1381～84) まで退転なく行われた

[表紙見返し]当日の供奉の次第は厳重にこの絵巻のとおり執り行い、のちのち異論に及んではならない

→絵巻に描かれているのは、中世に御船遊・三月神事・三月御幸などとよばれた神幸祭の鎌倉時代の行装

…絵巻の冒頭には、津宮・三鳥居・瞻男社・忍男社に行列が到着する場面が描かれ、先頭から一御船木・八龍神・二御船木・大楯・三御船木と続く

＝神幸祭の本質は新たな船(御船・御船木)の津宮への奉納

３　江戸時代の八龍神像

（１）香取神宮

古くは楼門上に祀られていた【１】

慶長12年(1607)の改造で正殿の大床に遷された【２】

元禄13年(1700)造営時に、八龍神像のうち２躰新調、６躰修覆【４－①】

宝暦６年(1756)、正殿大床の八龍神像の修覆再興【４－③④】

（２）鹿島神宮

御船祭において、丸木で３艘の船形を造り、それを空穂舟と呼んで楼門八龍神の前にそなえた【３―①】

八龍神は拝殿の脇２社、楼門に４躰、町の左右２社に祀られた【３―②】

龍神の名は闇淤加美神・闇御津羽神【３―②】

４　鎌倉～戦国時代の八龍神

（１）造営・遷宮と八龍神

保元３年(1158)の注文…「御弊(幣)八捧并八龍神持楯八枚」【５】

『続群書類従』神祇部巻第七〇の「下総国香取社造進注文事」

…「御幣八捧并八龍神柄八尺龍反アリ」【６】

保元３年調進の八龍神の持楯は８枚、その柄の長さは８尺
神幸祭絵巻の八龍神持楯は１枚、造宮記録断簡は８枚
鎌倉時代の造営記録、遷宮用途注文等【７】
Ａ一①：八龍神を描いた帳(引き幕)の綱四筋(本)分の料
②：八龍神を描く布地の料
④には「八龍神絵書料」→遷宮で八龍神を描いた引き幕を使用
③・④：「八龍神六躰」→八龍神像の造像
Ｂ・Ｃ・Ｄ：式年造営にあたり八龍神社６社(６宇)を造営
→八龍神６躰は八龍神社６宇に祀られた
Ｅ・Ｆ：大楯…仁王像を描いた２枚の大楯
Ｅ・Ｆの記載と絵巻の一致、Ｂに「大楯八龍神」
☆保元３年では８枚の持楯１枚ごとに龍を描き８龍
☆鎌倉時代に１枚の持楯の表裏に各４龍ずつの形式に変更
Ｇ：八龍神を香取神の神体と御輿・諸王子とともに記載
（２）神幸祭(御船祭)と八龍神
退転神官等所役所覚書写の記載【８】
☆御船祭では大細工が八龍神の大楯をしたて小長手が捧持
享禄２年(1529)の「御船遊陣職帳次第」【９】
☆王子三十余ヶ所と並称される左右八龍神
宮定の書式と文言は永禄11年(1568)の三月神事目録案に踏襲された
→その時点でなお左右八龍神社の形で存在
（３）八龍神像６躰は左右八龍神社、２躰は楼門上
「香取神宮境内古絵図」（元禄13年に元図を模写したもの）
☆楼門左右に３宇ずつ同規模の社殿＝左右八龍神か
（４）起請文に表れた八龍神の神威
天正20年(1592)の起請文２通【１０】【１１】
１通は「香取太神宮牛玉宝印」と摺写した牛玉紙の料紙【１１】
神文部分に香取大明神と左右の八龍神、王子三十余所を記載
☆香取神、その御子神とともに起請(誓約)の対象となる神威
（５）八龍神木像の損壊【１２】

５　明治維新と八龍神
・香取神宮…八龍神像は慶長の造営により楼門から正殿の大床へ
東西廻廊(1725)【１３】、渡殿に鎮座(1828)【１４】
明治維新後は宝庫へ
明治８年再興の神幸祭の祭儀次第に八龍神の記載はなし
・鹿島神宮…明治５年に楼門から取り片付け、大町龍神社の神体とした
明治13年に廻廊へ入れ置いてあった「廃龍神木像」を解体したとき
その像内に長享２年(1488)の修理の墨書銘を発見
・春日大社…第一殿の後の内院に八龍神社(近世以降は八雷神社と表記)
・常総両国で香取・鹿島の神とともに祀られている八龍神
…香取神・鹿島神の勧請にあわせ下総・常陸の各地に勧請か